

研究主題 新たな価値の創造 ～深い学びの実現を目指して～

I 研究の概要

本研究会では、どのような世の中であっても、その変化に合わせて、価値や意味を創り出したり、更新したりしていく子供たちの育成を目指し、生活科・総合的な学習の時間の充実を図る研究を進めていくために、研究主題を「新たな価値の創造」とすることとした。また、より生活科・総合的な学習の時間の特質を重視した研究にしていくために、「深い学びの実現」を副主題とし、それぞれの視点から以下のように分科会を設定している。

令和4年11月「第31回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 東京大会」において、7つの分科会が分科会提案を行った。

分科会	各分科会の研究主題
A（生活）	深い学びを実現するための環境構成とカリキュラム・デザイン
B（生活）	人との関わりを通して新たな気づきを生み出す指導の工夫
C（生活）	生活科の深い学びを支える表現活動の工夫 ～逆向き設計を活用した手立てを講じて～
D（総合）	質の高い課題更新から始まる深い学び ～子供の熱量が高まるブレークスルー～
E（総合）	学習活動の振り返りと指導の工夫 ～発達段階をふまえて～
F（総合）	子供の学びの必然性から生まれる多様な表現活動
G（生活・総合合同）	「その時子供が動いた」生活科・総合的な学習の時間の単元 ～「気づき」「探究」の質的向上を目指して～

II 7月研究会の事例 B分科会

「人との関わりを通して、新たな気づきを生み出す指導の工夫」

第1学年 生活科「なつと あそぼう」（内容(5)(6)）

日野市立日野第一小学校 浅見 美之 指導教諭

単元目標

夏の自然を観察したり、身近にある物を使ったりする活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、身近な自然の様子や変化、それを使った遊びの面白さや不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

本単元における研究主題に迫る手だて

研究主題にある「新たな気づき」を生み出している児童の姿を以下の3つの階層に分け、これらの姿を育成するために、「人との関わり」を通して行う手だてを以下に示す。

夏遊び単元における新たな気づきの姿		
	具体的な子供の姿	手だて
③ 深まり	自分なりに特徴や価値を見出して活動を創造し、以前より夏に対する考えが深まった自分に気付いている。	自覚につなげる声掛け 「どうしてそう思ったの？」「なんで楽しかったのかな？」「何と何を組み合わせたの？」など。 夏に対するイメージの変容を視覚化 学習前後の同じカードによる考えを比較させる。
	友達同士で新たに考えたことを試している。	子供同士をつなげる声掛け 「〇〇さんと一緒にやってみたら？」「〇〇さんがこんなことをしているよ！」など。 身近にある物を配置 ・ペン、はさみ、テープ、ストローなど。
	友達とコツや体験を伝え合って、遊んでいる。	振り返りの充実 ・形態や場所の選択、思いや願いを言語化させる支援をする。
② 関わり	遊びやそのルールを作っている。	共感・価値付け・認める声掛け 「いいね！」「なるほど！」「すごいね！」「面白いね！」「そうだね！」など。
	自分の観点で分類したり、「～みたい」などと例えたりしている。	素材のみを配置 マヨネーズ容器、ビニール袋、プリンカップ、食品トレー、牛乳パック、ペットボトルなど。 幼保小へのアンケート これまでの経験を知り、学びの連続性につなげる。
① 一人一人の認識	季節の違いや身近な物の特徴を見付けている。	クラスでの共有活動 クラス全体で夏集めをする目的意識をもたせる。

本時の目標（14 時間中の 8 時間目）

友達よさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、夏の遊びを楽しくすることができる。

展開

○本時の学習とめあてを確認する。



なつのあそびを パワーアップさせて なかよく たのしもう。

○本時の学習でやりたいことを確認し、見通しをもつ。

○夏遊びを楽しむ。

- ＜夏遊び＞
- ・シャボンだま
 - ・まとあて
 - ・ろかそうち(すなアート)
 - ・さかなつり
 - ・ふね
 - ・れすとらんごっこ

○協力して片付けをする。



○本時の振り返りをする。

成果

・気付きの階層を意識し、個々に合わせた言葉かけをすることで、活動が発展しやすくなることが分かった。

・学級の9割の児童が学習に没頭し、遊びを楽しみ、夏へのイメージが増し、夏への肯定的な見方が高まった。

課題

・学習前と後で夏へのイメージが変容しなかった児童が数名いた。そのため、振り返りで、自分の思いや願いがより表出できるように、自己内対話を充実させる等の工夫が必要である。

Ⅲ 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 東京大会 概要

◆期日 令和4年11月10日(木)～11日(金)

* 両日とも対面開催とリモート開催のハイブリット開催

◆1日目 午後 四谷区民ホール

○ 基調提案

○ シンポジウム「新たな価値の創造 ～深い学びの実現を目指して～」

シンポジスト 田村 学 先生(國學院大學教授・元文部科学省視学官)

奈須 正裕 先生(上智大学教授)

小笠原 さちえ 先生(大田区立久原小学校指導教諭)

松原 大樹 先生(墨田区立二葉小学校主幹教諭)

コーディネーター 齋藤 等 先生(東京成徳大学特任教授・本会前会長)

○ 記念講演

「予測困難な未来を切り拓く新たな生活科・総合的な学習の時間はこう創る」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸 先生

◆2日目 全日 ○新宿区立落合第三小学校 ○大田区立道塚小学校

○世田谷区立世田谷小学校 ○練馬区立開進第三小学校

○ 授業公開・協議会

○ 課題別分科会 37分科会(31都道府県)提案・協議・指導講評

○ 指導・講評

<連絡先>

団体名		小学校生活科・総合的な学習教育研究会
代表者	所属	武蔵野市立境南小学校
	職氏名	校長 宮崎 倉太郎
	連絡先	0422-32-3401
事務局	所属	新宿区立落合第三小学校
	職氏名	校長 清水 仁
	連絡先	03-3565-0941

◆冬季研究会（予定）◆

日時：令和5年2月25日(土)9:15～

会場：新宿区立落合第三小学校

※本研究会に興味のある方は、ぜひご参加ください。

詳しくは、本研究会HPをご覧ください。

<http://toseisouken.net/>

